

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



ガーナ北部ボルガタンガ近くの村にあるポンプ式井戸。家畜や村人で賑わっている。

私と「緑のサヘル」

セーファーフランが半分の価値に切り下げられた1994年、セネガルのカザマンス地方を取材する予定でダカルに着いた。当時からカザマンス地方は政治的に不安定だったので状況を調べてから取材に入ろうと思っていた。ダカルの路上でたまたま青年海外協力隊の瀬戸進一さんに会ったのでカザマンスの状況を聞いてみた。彼の話やその他の状況から判断し飛行機で州都ジガンショールに飛びその結果、取材はうまくいった。

数年後ブルキナファソ南部、ガーナ国境近くのポ近郊のカッセーナ族の集落の撮影を終えてワガドゥグのホテルに入るとロビーにセネガルで会った瀬戸さんたちがいた。彼等は「緑のサヘル」の事務所開設の調査に来ていた。以来、アフリカ取材にワガドゥグを基点とすることが多くなった。

自分が西アフリカに通い出したのが二十数年前からだが、この短い期間で気候が変化していることを感じる。「緑のサヘル」が木を植え育てることを中心としたプロジェクトを息長く続けているのは砂漠化や気候変動で変化する環境に対してあきらめないで行動する姿だ。「緑のサヘル」のプロジェクトの一つ「小学校緑化支援プロジェクト」のブルキナファソ、コングシ地域を見学させてもらったが教師や父兄が植えた苗木に生徒達が水をあげている姿は深く印象に残った。子どもたちは木に水を与えて育てることを身体で覚え、それをこれからの人生の一部にしてゆくにちがいない。10年、20年後にきっとあちらこちらに小さな森が出来ると思う。木を植えて育てることはアフリカのみならず日本でも大切なことだと思う。

小松 義夫

2010年を振り返って

緑のサヘル 代表理事 岡本敏樹

近年、1年の経過が一層早く感じられるようになりました。昨年、ブルキナファソで年度を振り返ってから、本当に1年が経過したのか不思議な思いがします。これには、年間6ヶ月ほど現地に出張しているために、日本にいても現地にいても暑い時期を過ごしているのに、季節感覚が鈍っているせいもあるかと思います。このような時、私は季節の変化を肌で感じることで、時間の経過を意識していることに思い至ります。

さて、私が青年海外協力隊に参加していた頃、「暑さが早い年は、雨季が早い」と聞いたことがあります。ブルキナファソでは、例年まだ過ごしやすい時期であるにもかかわらず、今年は2月から暑くなってきました。加えて3月から4月にかけては停電が頻発したため、現地事務所では38度を越える室温の中での作業となりました。その暑い最中、プロジェクトを実施しているコングシ地域の村々では、住民がディグット設置やザイの準備にいそしんでいました。幸い十分な降雨に恵まれ、今ではどの村でも豊かな穂をつけた穀物を目にすることが出来ます。

タンザニアでは、実施しているプロジェクトが新たな展開を迎えました。これまでの成果を踏まえ、普及と定着を目指す段階に入りました。西アフリカ諸国とは色々な面で勝手が違い、戸惑うことが多かったのですが、やっと馴染めてきたような気がします。東京では、共同事業のお話を伺うことや、ご寄付やご支援に関するお問い合わせを受けることが多くなりました。団体が考え、実施を希望するプロジェクトに支援をしてもらうという一方通行の関係ではなく、パートナーの対象として「緑のサヘル」が意識されてきたように感じます。

現地でも日本でも、このようなパートナー関係が築ける相手に出会えることについては、恵まれていると感じています。ただ、折に触れて述べていることですが、これも支援者の皆様からの有形無形のお力添えにより、たゆまず活動を積み重ねて来られたお陰だと思います。「緑のサヘル」は、今年、設立後19年目を迎えましたが、日本でのイベントでブースに来て下さった方、カレンダーの注文用紙に添えて下さったコメント、振込用紙に書いて頂いた一言など、今年も皆様からずいぶんと励まして頂きました。本当に、ありがとうございました。

ところで、「緑のサヘル」の雰囲気も、少し変わったような気がします。各スタッフが自主的かつ持ち味を活かした判断で、業務を進めて行く機会が増えてきました。同じやり方や見方を保持することが良い場合がありますが、一方で単なる踏襲であり繰り返しに終始してしまうことにもなりかねません。ひとつの刺激にも、いろいろな反応を示すのが生きていることの証だと思います。この意味で、組織として、生き生きしてきたように感じます。

2010年は、春先の冷え込みから夏の猛暑、秋口からの急な冷え込みなど、気温に翻弄された1年でした。こうしてみると、改めて、自然に取り巻かれて生活しているのだと感じます。異常気象がみにならないと意識できないのはどうかと思いますが、これは今どきの感じ方なのでしょうか。日本では、「夏が暑い年は冬寒い」と申します。例年に増して寒さが厳しくなりそうですので、ご自愛の上、良い年をお迎え下さい。

(写真は2009年度に植林を行なった小学校の表彰式)





バム湖周辺地域環境保全プロジェクト(湖岸植林)



コンディビト村の植林サイト。

プロジェクトを実施しているコングシ地域では、住民が穀物の収穫に追われています。今年は雨季の降雨が順調だったことから、どここの栽培地でも穀物が重い穂を垂れています。

バム湖周辺の4村（バディノゴ村、コンディビト村、コラ村、バイエンフルゴ村）で湖岸植林を行なっていますが、2009年にそれぞれの植林サイトに植えた苗木が大きく成長していました。雨期明け直後ということもあり、植林サイトには草が茂っていますが、苗木は既に草の高さを超えるまでになっています。現在、穀物の収穫作業と平行してですが、住民の手によって草刈りが進められています。

苗木は大きくなるまで、とても手間がかかります。特に植えてから3年は、こまめな管理作業が必要となります。このため、いくら意欲を持って始めても、途中でくじけそうになることがあります。植林サイトの住民が、「折に触れて視察に来てくれるのが励みになる」と話してくれました。4村の2010年の植林サイトはもう決まっており、11月中旬以降、収穫作業が終わるのを待って、植栽が開始される予定になっています。

JICA 草の根技術協力事業

本事業はロルガ、タンギエマ村の2村で順調に進められています。今年の雨季、降雨が充分であったことに加えて、ディグット（石を並べて表土の流出を防ぐ技術）やザイ（荒廃が進んだ土地に穴を穿って堆肥を入れる技術）の効果もあり、両村とも近年にない良作に恵まれました。

ロルガ村では、湖岸に近い共有地に設置したディグット・サイトで、穀物栽培が行なわれました。土が固いため、これまで一度も栽培を行なったことがなかった場所ですが、今年約100kgの収穫がありました。固かった地面も、耕された上に穀物の根が張ったお陰か、以前と比べて柔らかくなった気がしました。来期も作付けすれば、一層栽培地として適した土地になると思います。

タンギエマ村では、ディグットとザイを用いた栽培地での穀物の成育状況や、豊かに実った穂に刺激を受けたのか、近隣村から設置希望が寄せられています。住民の取り組みが、周囲の目から見てもはっきりとした結果になって現れたためでしょう。間もなく、今期の取り組みが始まりますが、しっかりとサポートして行くつもりです。

また養蜂活動についてですが、タンギエマ村に設置した6箱の養蜂箱の中に、蜂が住みついていないものがあることが悩みの種でしたが、今年の雨季、やっと蜂が巣を作りました。これから蜂蜜収穫の時期を迎えますが、今期の採取量が楽しみです。タンギエマ村で7月から開始した子羊の肥育活動については、雨季で餌となる草に恵まれていることもあり、これまでのところ順調です。これから乾季を迎えますが、幸いにも今年は収穫が良好なので、深刻な餌不足になることはない見込みです。



ディグットの効果で成長が良好です。

タンザニアから



難民キャンプ周辺荒廃森林等保全・復旧事業



ムグンズ村環境委員会との話し合い。

8月中旬、今年度最初となる現地出張を約2週間の日程で実施しました。現地では、ムグンズ村環境委員会との話し合いの場がもたれ、植林区における苗木の成育や作物の収穫状況、委員からの要望など、様々な情報や意見を伺うことができました。

その中の1つに、「より効果的で持続可能な植林方法を学ぶため、近隣で積極的にアグロフォレストリー活動（耕地内植林）をしているコミュニティを視察したい」という声があり、現地の協力団体である「REDESO（社会開発救援）」のスタッフと検討した結果、本事業と類似の活動経験を持つルコレ・キャンプ周辺のンガラ地域を訪問することに決まりました。

このンガラ地域は、2002年から2006年まで、英国カトリック国際援助団体「CAFOD（カトリック海外開発機関）」がREDESOと協力し、食糧増産を目的としたアグロフォレストリー活動が実施された場所で、大きな成果を収めています。この視察を通して、ムグンズ村環境委員会のメンバーが多くの教訓を学び、本事業終了後も様々な環境保全活動に反映してくれることを期待しています。

チャドから



チャド現地情勢：首都ンジャメナで洪水が発生しました

10月21日、首都ンジャメナを流れるシャリ河が氾濫し、河に面しているワリア居住区の数千世帯が被災しました。1,500世帯が家屋を流されたほか、トイレや井戸も水面下となり、コレラが流行する恐れの高いことから、同地区の住民は移転しました。しかし、他の地区に住む住民は感染を恐れ、ワリア地区から移ってきた住民の受け入れに難色を示しています。コレラ自体は、ンジャメナで8月から流行の兆しを見せ、現在国内22州のうち6州で流行が確認されています。9月には罹患者は735名でしたが、10月には3,338名に増加しています。

幸いにも、ンジャメナでは、11月に入ってから被災者に対して水の消毒薬と抗生物質、テントが配布されました。しかし、根本的な問題は、ワリア地区がシャリ河の水面とそれほど変わらない低地に広がっていることです。この点については、ずいぶん前から議論されていたものの、これまで行政による取り組みは行なわれていませんでした。今年チャドでは洪水の被害が19州に及んでおり、10月25日の被災地視察の際、イドリス・デビ大統領は「シャリ河とロゴン河の川岸には居住しないように」との声明を出しました。

ワリア居住区に住んでいる住民には、低所得者層の方々がたくさんいます。「衛生上の改善」という名目による行政の都合からではなく、居住区に住んでいる方々の事情を踏まえた対策が採られることを期待しています。



1998年にワリア地区で発生した洪水。居住区全体が水に覆われました。

国内活動 1



今期は、毎年恒例の「グローバルフェスタ」の他に、「スマイル・エコ・ウォーキング&ジョギング with 高橋尚子」が催されました。「緑のサヘル」のブースにもたくさんの人が訪れ、熱心に活動内容を聞いてくれました。また、東北から多くの生徒さんが事務局を訪れてくれました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

2010 年			
8 月	10 日(火)	チャリティ☆ナイト 「アフリカの呪術」	共催
	21 日(土)	世界食料デー月間 2010 食料問題を考えるシリーズ 「みんなで食べる幸せを」第 3 回「西アフリカ・サヘル地域 諸国での食料問題の考え方—ブルキナファソの場合—」	講演 (岡本)
9 月	14 日(火)	チャリティ☆ナイト 「大学生が見たアフリカ—ベナン、ルワンダ、ウガンダ」	共催
	30 日(木)	岩手県花巻市立 東和中学校 事務所訪問 (2 年生 7 名)	講義 (町)
10 月	2 日(土)	グローバルフェスタ (東京・日比谷公園：～3 日)	出展
	3 日(日)	チャリティーラン (東京・皇居周辺)	出展
	12 日(火)	チャリティ☆ナイト 「食料自給から考える農村の平和—アフリカの場合—」	共催
	16 日(土)	スマイル・エコ・ウォーキング (東京・築地本願寺)	出展
	25 日(月)	岩手県盛岡市立 下橋中学校 (2 年生)	講演 (菅川)
	27 日(水)	岩手県盛岡市立 下橋中学校 (2 年生)	講演 (町)
		岩手県盛岡市立 杜陵小学校 (6 年生)	講演 (菅川)
	29 日(金)	岩手県軽米町立 軽米中学校 (1 年生)	講演 (菅川)

下橋中学校2年生 講演会



岩手県の盛岡市立下橋中学校では、毎年「緑のサヘル」の講演会を開催しています。今年も事務局長の菅川とプロジェクト調整員の町が、2 年生を対象に講演を行ない、菅川は下橋中学校に赴き「緑のサヘル」の活動の趣旨や概念を、町は修学旅行の宿泊先において、現在ブルキナファソで進められているプロジェクトを紹介しました。

また講演の終了後には、生徒会が全校生徒に呼び掛け、集めてくれた募金が「緑のサヘル」に寄付されました。

下橋中学校の皆さんによるご寄付は、これまでも現地の様々な活動を支えており、現在はブルキナファソで続けられている小学児童と保護者、教師による校庭への植林活動に活かされています。

今年 6 月に行なわれた各校の植林成績発表会において、下橋中学校のエコ委員長から届いたメッセージが読み上げられると、参加者から大きな拍手が起こりました。ブルキナファソの子供たちは大いに励まされたようです。下橋中学校の皆さん、ありがとうございました。





グローバルフェスタJAPAN2010

10月2日(土)・3日(日)に日比谷公園にて、「グローバルフェスタ JAPAN2010」が開催されました。グローバルフェスタは10月6日の国際協力の日を記念して開催される国内最大級の国際協力のイベントで、今年で20周年を迎えます。

今年のテーマは「MDGs(ミレニアム開発目標)それは“私たちの約束”でした。21世紀の国際社会の目標として国連が掲げたMDGsのことを多くの人に知ってもらうために、様々な楽しいイベントが開かれました。

両日とも好天に恵まれ、2日間で10万5千人の方がご来場になりました。「緑のサヘル」のブースにも、多くの方が立ち寄り、アフリカの民芸品や2011年カレンダー等を購入して下さいました。特にシアバターのクリームや石鯨が大人気でした!



チャリティーランinグローバルフェスタ2010

グローバルフェスタの2日目(10月2日)、日比谷公園のすぐ隣の皇居周辺で「第17回チャリティーラン」が開催されました。これは「走ることを通して国際貢献をしよう!」を目的に、マラソン参加費の一部を寄付金として集め、日本のNGOを通して現地に貢献するイベントです。当日は1,060人が参加し、5kmと10kmの皇居周辺コースを走りました。



今年のチャリティーランの支援先には、「緑のサヘル」の「ワガドゥグ市内における衛生改善プロジェクト」が選ばれました。このプロジェクトは、ブルキナファソの首都、ワガドゥグ市内の17小学校の全教室に給水タンクを設置すると共に、バケツやタライ、石鯨などを供与し、講習会を実施することで小学校の衛生状況の改善を図るものです。

スマイル・エコ・ウォーキングに出展しました!

去る10月16日、築地本願寺で開催されたイベント「スマイル・エコ・ウォーキング&ジョギング WITH 高橋尚子」にブース出展をしました。このイベントは、日本国内から回収されたシューズをアフリカの子供たちに届ける活動をしている「スマイル・アフリカ・プロジェクト」が主催するもので、「日常の中にある環境問題への理解を深め、具体的なアクションへとつなげてもらう」ことを目的に、一般の参加者がお台場から築地本願寺までをウォーキング&ジョギングしました。

当日は、パートナーであるオリンピック金メダリスト 高橋尚子さんも駆けつけ、参加者にウォーキング・アドバイスをしたり、ステージではトークをするなど、スポーツの秋にふさわしい賑やかなイベントとなりました。



ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 新規会員のみなさま 】

中村吉昭

【 継続会員のみなさま 】

杉田光義／高橋まり子／佐藤由規／佐々木仁・セツ／北川華子／古川フミ子／高橋聖子
水真陽一／株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション

【 ご寄付を頂きました 】

三谷純平／碓井道子／加藤治郎／友寄睦月／榎本みつ枝／豊田和子／加藤正博／柏原竜一／小林伸張
木嶋清江／高松千枝子／内田一二三／瀬戸義子／木野下章／入江成子／丹邦子／山本淑子／西原華林
高野賢一／小池昌子／神人ネットワーク京都 蛭名健仁・加奈子／小笠原弘子／氏岡治代／高橋量平
東君枝／秋山美和子／江刺和広／金明希／渡部知子／原田宙明／松本仁一／有限会社オルト 梁好文
個別教育フォレスト 安多秀司／株式会社ベルモ 福井誠／アクトシステム株式会社
株式会社東京アグリビジネス／ヤンセンファーマ株式会社 臨床開発本部 臨床統計部
富士ウエルテック株式会社／株式会社ユビキタスエナジー／株式会社ネプロアイティ
岩手県盛岡市立薮川中学校生徒会／岩手県盛岡市立下橋中学校／Kato グリーンウッド基金
チャリティラン(管理団体：ワールドランナース・ジャパン)

他 匿名をご希望の方 1名

【 ハガキ・切手などを頂きました 】

岩手県花巻市立東和中学校／岩手県盛岡市立下橋中学校

上記は 2010 年 8 月 16 日から 2010 年 10 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2010 年 11 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、ご芳名の掲載につきまして、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。

【 協力団体・助成団体 】

(財)毎日新聞東京社会事業団／サヘル緑化ファンド(管理団体：(財)大阪国際交流センター)
(独)国際協力機構(JICA)／(財)イオン環境財団(環境活動助成)／株式会社サティスファクトリー
アクトシステム株式会社／株式会社ユビキタスエナジー／株式会社ネプロアイティ
(財)農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校／アフロ・フレンチレストラン 神楽坂トライブス
(特活)国際協力 NGO センター／(特活)環境アリーナ研究機構／(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(財)地球・人間環境フォーラム／(社)国際農林業協働協会／国際連合食糧農業機関(FAO)
(財)国際緑化推進センター／緑の募金 (管理団体：(社)国土緑化推進機構)

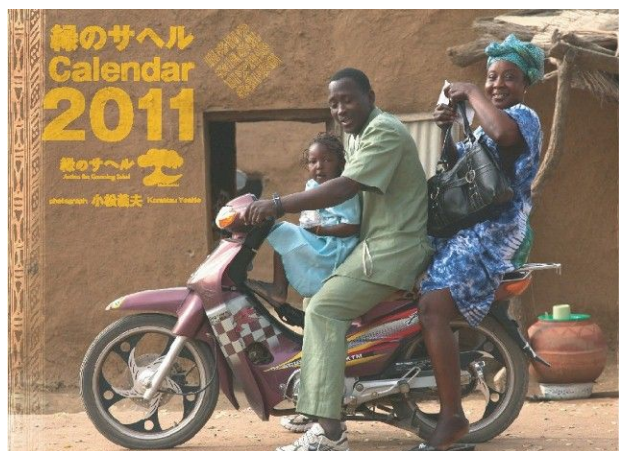
画像を提供しました

株式会社 ベネッセコーポレーション

平成 23 年度進研ゼミ 中学講座チャレンジ社会 WEB 教材

おしらせ

緑のサヘル 2011年オリジナルカレンダー 好評発売中！！



今年も「緑のサヘル 2011 オリジナル・カレンダー」を大好評発売中です！ 住民の社交場となっている井戸の風景や、たわわに実をつけたバオバブの木、色鮮やかな衣装に身を包んだ女性たち、日干しレンガの家々など、写真家・小松義夫さんによる、力強く魅力溢れる写真が満載です！

【 もくじ 】

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動1 |
| 2・・・ブルキナファソから1 | 6・・・国内活動2 |
| 3・・・ブルキナファソから2 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・タンザニア・チャドから | 8・・・お知らせ |

< スタッフのひと言 >

●16日は、ブルキナファソでは羊を食べるお祭りでした。頂いた羊肉をアフリカ滞在の実感と共にかみ締めました。(岡本) ●間もなく今年3回目のブルキナ出張です。少々バテ気味ですが、活動が順調に進んでいる証と、自らを奮い立たせています。(菅川) ●久々のブルキナ出張に出かけます。すごく楽しみです。(町) ●今夏に初めてベランダ菜園をしましたが、ほとんどの野菜が酷暑に負けてしまいました。(鈴木) ●我が家のバオバブが2度目の越冬に挑戦中です。(木藤) ●卒論に追われ、格闘する毎日です。ぼろぼろになるまで頑張ります。(小川)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、**ご依頼人様とお届け先様**のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	ア イ ス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カ レ ー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チ ー ズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol. 44

編集 菅川拓也 岡本敏樹 町慶彦 鈴木香織 木藤絢乃 / 発行 菅川拓也 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041